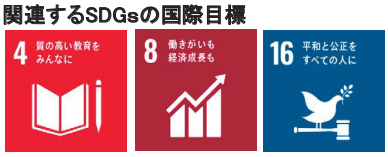
教養概念を切り口にして
教育目的・目標のより良いあり方を考える

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部　人間関係学科　　准教授　　本宮　裕示郎
研究分野：教育方法学、教養論、学力論

教養概念を切り口にして、理論と実践の両面から学校教育における教育目的・目標のより良いあり方について考えています。これまでは、教養（culture）をめぐって19世紀イギリスで展開された自由教育（liberal education）論争を対象にして理論的な研究を行ってきました。今後は、戦後の日本で主張された国民的教養論を対象にして教養概念の価値を考えていく予定です。また、実践的な研究としてカリキュラム設計や授業づくりに関する共同研究を学校現場と行っています。

■教養概念に関する理論的な研究

これまでは、19世紀イギリスでの論争をもとに、幅広く知識を得ることと人格形成の関係を問うことによって、教養概念の価値を考えてきました。当時、価値が認められつつあった科学教育を推進する立場と、伝統的に重視されてきた文学教育を擁護する立場の間で自由教育論争が展開されました。特に、科学教育推進派　T. H. ハクスリーと文学教育擁護派　M. アーノルドという二人の代表的な論者の思想を手がかりにして、幅広い知識を得ることと人格形成の関係を科学と文学という切り口から模索してきました。

今後は、戦後初期から1970年代にかけて教育学者によって展開された国民的教養論を検討することによって、教養概念の価値を考えていく予定です。戦後、エリート学生文化としての教養主義の背後で、勝田守一や堀尾輝久ら教育学者は、誰もが教養を身につけることを求め、国民的教養や全面発達といった言葉を旗印にして、学校教育を土台とする教養論を展開していました。当時の教育・社会状況や、大正教養主義などの戦前の教養論と結びつけながら、教養の目的（何のために）と内容（何を）に着目して国民的教養論を検討していきます。



■教育目的・目標に関する実践的な研究

カリキュラム設計や授業づくりに関する共同研究を学校現場と行ってきました。兵庫県立尼崎小田高等学校との共同研究では、科学的な探究活動で培われる汎用的スキル（コミュニケーション能力など）を評価するルーブリックを作成しました。また、カリキュラム設計の理論であり近年注目を集めている逆向き設計論に関して、大阪府大阪市立本田小学校と共同研究を行い、その成果をまとめたガイドブックの作成に携わりました。今後も、理論的な研究での成果を踏まえて、学校現場との共同研究を行い、理論と実践の両面から教育目的・目標のより良いあり方について考えていく予定です。

